

以前、御殿場にある青少年交流の家で社会教育関係の研修会に参加する機会がありました。その折に講師の方から子どもたちの自然体験と道徳観の関係について、たいへん興味深いお話がありましたので紹介します。

平成10年と平成17年の二回、子どもたちの自然体験の状況と道徳観について調査をしたそうです。その結果、「太陽の昇るところや沈むところを見る」

「チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえる」といった身近な自然体験をほとんどしたことがない青少年がこの二年を比較すると増えているということです。

また、「キャンプ」や「川や海で泳ぐ」ことなども含め、自然の中で活動する体験を持つ青少年が全般的に減っていました。しかも、家族や友達と一緒に自然体験を行う割合が、学校や青少年教育施設、青少年団体を通じて自然体験を行う割合と比較して著しく減少していたそうです。

さらに、「自然体験」と「道徳観・正義感」に関する質問への回答を得点化し、それぞれを五段階に区分した上で、両得点の相関関係を調べたそうです。すると、自然体験の多い青少年の中には、道徳観・正義感があり学習意欲・課題解決意欲の高い青年の多いことが分かりました。

また、集団による長期キャンプは、積極性や協調性を高め判断能力を育てるといった社会性の育成に効果の高いことも明らかにされたそうです。これは、自然という、人間が完全にはコントロールできない環境の下で、仲間を支えられながら一緒に様々な課題や困難に立ち向かう中で、社会性は育成されていくものであると考えられるということです。

つまり、「自然体験の多い小中学生には道徳観・正義感の身に付いている者が多く、自然に触れることで学習意欲を喚起される者が多い。さらに集団による長期キャンプは、社会性を育てる。」ということでした。

幸い都留市は豊かな自然に恵まれ、ムササビを始め多くの野生哺乳類とも出会うことができます。また、自然と子どもたちの橋渡し役として「うら山かんさつ会」が行われています。さらに、「宝の山ふれあいの里」には、自然にふれあい親しむことができる多彩なプログラムが用意されています。まさに、自然体験に於けるハード面、ソフト面とも十分な環境にあります。これらを、活かすなかで、子どもたちにたくさん自然体験を与え、道徳観や正義感に溢れる人間に成長してもらいたいと願っています。

連載・青少年健全育成シリーズ 第243回

「自然体験は道徳観・正義感を育てる」

毎月第1日曜日は「家庭の日」

毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。

青少年育成都留市市民会議編集委員

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています
(10,500部発行)ので、多くの方の目に触れます！

問合先：行政管理課 秘書広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額 / 枠	備考
裏面	カラー	20,000	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,000	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月

⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。

掲載状況につきましては、下記をご参考としてください。

また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広 告 掲 載 欄

広 告 掲 載 欄